

・・・ 実技 【折れ線グラフの読み解き】 ・・・

グラフは「ヒトが暗闇に入り続けたときに、感じる事ができる光の強さ」を表しています。下記の折れ線グラフに補助線を参考に、グラフを読み解きましょう。

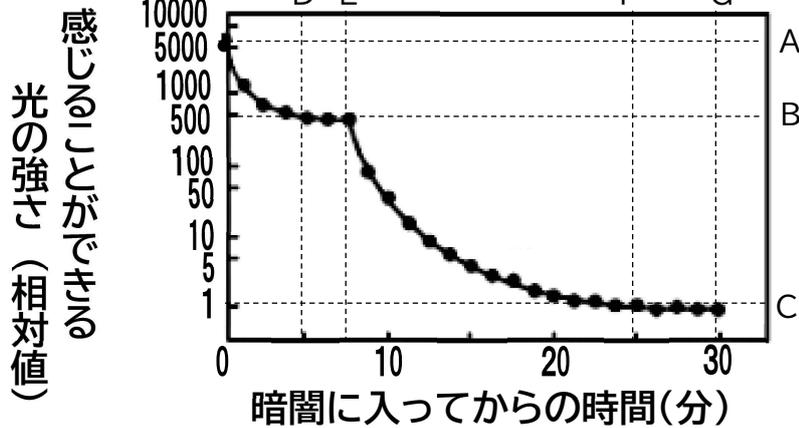


Fig.1: ヒトが暗闇に入り続けたとき、感じる事ができる光の強さ

- (1) 次の文章の()を埋めながら、このグラフが示す隠れた秘密を推理しましょう。なお、相対値はある数値を基準にしたときの何倍かを示しています。このグラフは、25分以上暗闇にいたときの感じられる光の強さを1としたときの相対値です。

【文】補助線Aは明るい場所に、ある人がいるときに、その人が感じる事ができる最小の光の強さを示しています。このときの光の強さの値は(①)です。

補助線BとDから、その人が暗闇に入った(②)分後に、感じる事のできる最小の光の強さは(③)になります。たった(④)分間で、明るい場所では感じられなかった10分の1の弱い光を感じられるようになりました。

次に、補助線B・D・Eから、その人が暗闇に入った5分後から(⑤)分後まで、感じる事のできる最小の光の強さは変化していません。これを限定要因で考えると、すでに暗闇にいる時間が、弱い光を感じられる条件ではないことを示します。すなわち暗闇にいる時間を長くしても、それ以上に弱い光を感じることはできないことを示しています。

しかし、補助線B・C・E・Fから、その人が暗闇に入った8分後から(⑥)分後までの間に、感じる事のできる最小の光の強さはさらに弱くなり、その値は(⑦)になります。すくなくとも(⑧)分の間、その人が暗闇にいれば明るい場所では感じられなかった50000分の1の弱い光を感じられるようになります。

その後、ヒトが暗闇にいても、これ以上の弱い光を感じることはできません。

【あなたの推理】

「ヒトが暗闇くらやみに入り続はけたときに、感かんじる最さい小しょうの光ひかりの強つよさのグラフ」からわか
る
秘ひみつ密は、